

わが社が100年続いたために 会社を良くし、 社会からの評価を高める SDGs 活用法

日刊工業新聞社 松木 喬

SDGs

国連が定めた持続可能な開発目標（SDGs）達成への貢献を表明する企業が増えている。全世界が達成を目指す壮大な目標である SDGs になぜ、企業が取り組む必要があるのか。SDGs を参考にすると経営にどのようなメリットがあるのか。さまざまな企業を取材した経験から、派手さはないが効果的と思える企業の SDGs アクションをまとめた（写真1）。

SDGs とは？

2015年9月の国連総会で決まった Sustainable

*(まつき たかし)：第二産業部 記者



写真1 著者がSDGsアクションをまとめた書籍
(日刊工業新聞社より発行)

Development Goals の略称が SDGs (エス・ディー・ジー・ズ) だ。簡単に説明すると「2030年までの世界目標」となる。国連に加盟する約200カ国の政府関係者やNGOなどの市民代表が「今の世界の課題は何か」を議論し、2030年までの課題解決を目標としてまとめた。このためSDGsは「2030年をこういう世界にしたい」という未来像を描いたという言い方ができる。

SDGsは廃棄物の削減、貧困の撲滅、労働者の人権、都市と地方の格差解消、賄賂の禁止など、環境から経済、社会分野までの幅広いテーマを網羅する。また途上国だけでなく、先進国が抱える課題解決も目標に掲げた。

ただし、条約ではないので法的拘束力はない。義務でもない、達成できなくても罰則などのペナルティーもない。企業に活動を強制するような法規制でもない。

ではなぜ、企業はSDGs達成に貢献するように求められているのか。「持続可能な社会をつくるため」「取り残されるから」「ビジネスチャンスだから」という回答を聞いたことがあるかもしれない。

実は、SDGsの本体である「持続可能な開発のための2030アジェンダ(以下、アジェンダ)」と呼ばれる文書に企業にSDGsへの参加を求める理由が書かれている。その一部を紹介する。

○小規模企業から多国籍企業など多岐にわたる民間部門が新アジェンダ(SDGs)実施の役割がある。

○民間セクターに対し、持続可能な開発における